

平成23年度「日本／ユネスコパートナーシップ事業」
ユネスコスクール地域交流会in金沢
参加（発表）報告書

提出日 2011年 9月 21日

1. 学校基本情報

学校基本情報Ⅰ				
ふりがな	いしかわけん かなざわし ひさやす			
住所	〒 921 - 8164 金沢市久安6-154 石川 県			
連絡先	TEL	076 - 243 - 2261	FAX	076 - 243 - 2262
	E-MAIL	aki-nakamura@kanazawa-city.ed.jp	HP	www.kanazawa-city.ed.jp/minma
ふりがな	かなざわしりつみんましようがっこう			
学校名	金沢市立三馬小学校			
ふりがな	しまづ けんいち			
学校長名	島津 健一			
ユネスコスクール加盟時期	22	年	8月	
ふりがな	なかむら あきこ			
発表教員氏名	中村 晶子			
役職	教諭	担当教科・学年	6年	
学校基本情報Ⅱ				
学校の教育目標とその説明 (300字程度)	<p>「自ら律する力を養い、感じる心、考える力を育てる」 本校では、日々変化する社会の中で出会う問題や困難に対し自らの進むところを判断し、自ら進んでいく力、自然や社会、人とのつながりに関心を持ち、温かに働きかけ、豊かなつながりを築いていこうとする心、問題や困難に今までの知識を基盤に思考・判断し、伝えていく力を「自ら律する力を養い、感じる心、考える力」と捉え、子ども達にこれらの力が育っていくよう日々教育活動を行っている。</p>			
地域の特徴とこれまでの活動実績 (500字程度)	<p>本校は、金沢市の南部に位置する創立137周年を迎えた伝統ある学校である。学校の北西には伏見川が流れ、桜が立ち並ぶ川縁は子ども達や地域の方の憩いの場となっている。校区の伏見川沿いの西側には田園と古くからの町並みが広がり、東側には商業地、北側は住宅地となっており、古い町並みと新しい町並みが混在する地域である。</p> <p>本校では、平成18年度から2年間文科省の食育指定校になり、加賀野菜や金沢近海の水産物の生産者を招き、金沢伝統の食文化にふれる学習を行ってきた。これらの学習を通して、金沢を大切に、伝統を守ることのすばらしさや出会った方の生き方や仕事に向かう姿勢、人との関わり方などを学んできた。また、児童会活動では、国際協力として、20年以上の長きにわたりマダガスカル島へ「オレンジ作戦」を行っている。オレンジ作戦では、昨年はブルキナファソの方から国の現状を聞き、児童会を中心として文房具の援助などを行ってきた。</p>			

2. 今回、交流会で発表された学校でのESD活動について下記にまとめてください。

<p>活動 タイトル (30字以内)</p>	<p>共に生きる 未来に生きる ～三馬から 地域へ、世界へ～</p>				
<p>目的 (300字程度)</p>	<p>1・2年生は植物や加賀野菜の栽培, 3～6年生は, 地域, 福祉, 環境, 国際理解, キャリア教育と様々な今日的課題を隈なく学習し, 人や自然との関わりを大切に する子ども達を育てている。また, 学年を追うごとに, 校区→金沢→世界へと視野 を広げ, 考えを発信できる子ども達を育てることをねらいとした。これらの学習 を通して, 人々とのつながりを大切にし, 持続発展可能な社会の担い手となる子 ども達の育成をめざしている。</p>				
<p>対象学年・対象者</p>	<p>全学年</p>	<p>対象人数</p>	<p>752名</p>	<p>教科・ 課外活動</p>	<p>生活科・総合</p>
<p>内容 (スペースは自由に 広げてください) (800字以上)</p>	<p>本校は, 金沢市南部の住宅街であることから, 金沢が誇る伝統文化等とは縁がない 町である。そこで, 伝統文化以外の地域, 福祉, 環境, 国際理解, キャリア教育 と様々な今日的課題を隈なく学習を行うことにした。 3年生「地域と交流して学ぼう(地域交流)」では, 地域のデイサービスに通所 するお年寄りとおふれ合ったり, 地域のお年寄りとお遊びを通して交流している。 4年生「みんなが住みやすい町(福祉)」では, 高齢者や障害のある方について 知ったり, 擬似体験やゲストティーチャーの話, 施設見学から理解を深め, 三馬地 区の住みやすさを考える学習をしている。 5年生「三馬から考えよう地球の環境を(環境)」では, 伏見川の観察, 生き物 調査, ゴミ拾い活動, サケの卵を孵化させ, 稚魚を育て, 放流したり, 地球環境の 現状について調べ, 自分の行動を考えている。 今回の地域交流会では, 6年生の実践を中心にお話をさせていただいた。6年生 のテーマは「共に生きる 未来に生きる(キャリア教育・国際理解)」。働くのは 何のためか? 社会にはどんな仕事があるのか? と調べた後, 子ども達は, 自分の憧 れの職業人に手紙を書き, 直接お話を伺ったり質問紙への回答をお願いした。その うち, 保育士, 水族館の飼育員, パティシエ, 酪農家など16名の方が来校してく ださった。また, 女子マラソン赤羽選手, プロ野球大松選手など20名以上の方か らお手紙もいただいた。子ども達は, 憧れの職業人の来校や回答に, とても喜んで いた。 どの職業人からも, 仕事をする上で大切にしていることなどを教えていただき, 今自分に大切なのは「関わる力」「小さなことを一つ一つ積み重ねること」など, 一人一人が気づくことができた。 その後, 子ども達に, 多忙な職業人の方がみんなに返答や来校して下さったのは なぜか考えさせた。子ども達は「ぼくたちが期待されているから」「私たちに夢を 持ってがんばってほしいから」などと考えていた。この問いかけにより, ESDの 視点である, 子ども達たちが次の社会の担い手であることを意識させることができ た。 職業について学習することで, 将来の夢を明確にし, 夢に向かって毎日の学習や 生活に取り組んだり, 今の自分に必要なことは何かを見直したりすることができ た。また, 仕事をする上で大切なことや, 働く人への感謝の気持ち, 生きるすばら しさも感じていた。さらに, 障害を持ちながらも懸命に生きる方や世界の子も達の のために働く方からもお話を伺い, 多くの世界に目を向けて生きる大切さも学ん だ。</p>				
<p>【貴校におけるユネスコスクール・ESD活動について教えてください。】(○で囲む)</p>					
<p>*①学校内でESD、ユネスコスクール関連の連絡会議がありますか。 (はい)・いいえ</p>					
<p>*②ESDカレンダーを作成していますか。 (はい)・いいえ</p>					
<p>*③活動の実施に当たり、外部の方の協力を得ていますか。 (はい)・いいえ</p>					
<p>*④活動の結果、生徒の行動や思考に変化が生じていると感じますか。 (はい)・いいえ</p>					
<p>*⑤活動を通して先生ご自身が新たに気づいたことがありますか。 (はい)・いいえ</p>					

⑥上記の活動を通して、先生が発見したこと、生徒の感想や保護者、地域の方々の声、先生のご感想などを自由に書いてください。

*①～⑤について

平成22年度文部科学省「日本／ユネスコパートナーシップ事業」学校&みんなのESDプロジェクト活動報告書『ひろがりつながるESD実践事例48』（P.159）をご参照ください。

3. コメント

この地域交流会の参加を通して、先生が発見したこと、ご感想やご意見などを自由に書いてください。（500字以上）

実践報告では、西小学校のアートマイルプロジェクトが印象的でした。子ども達が半分仕上げた絵をロシアの小学校へ送り、共同作業で仕上げた大きな絵には、子どもたちの夢がたっぷり詰まっていました。同じ地球に生きる仲間を身近に感じる事ができたことでしょう。西小では、1年間で総合の担当者を代え、多くの教員がESD教育に関わるようにしたという。また、子ども達の変容を感じた先生方が、次年度の担任に是非この学習はやっぱりいいよと勧めるとのこと。分科会での全員野球でやっています、という校長先生の言葉が心に残りました。

被災地宮城県からのご参加もありました。仙台市立中野小学校の先生は、津波に押し流された家々が校舎にぶつかるのを屋上に避難した子ども達と一緒に見ていたこと、校舎内が押し寄せたがれきで校舎はもう使えなくなったこと、生活科や総合の学習のフィールドだった干潟や川がもうなくなったこと、などを報告され、被災地の子ども達のことを思うと胸がつぶれそうでした。ユネスコ加盟校からも温かい励ましや文房具などがたくさん届けられたそうで、改めてユネスコのつながりを感じました。届けられた物資の多さから、日本の豊かさを感じたとのことでした。今被災地の子ども達に必要なのは心のケア。総合の学習の時間に、心をほぐす学習を行っているとのこと。「自分たちのことを忘れないでいてくれればそれでいいんです。」と中野小の先生はおっしゃっていました。私たちは同じユネスコ加盟校として、心を寄せ続けたいと思います。